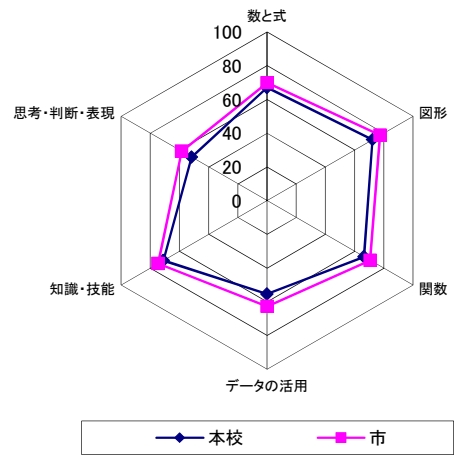


宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.1	69.9	66.4
	図形	72.2	77.4	68.1
	関数	66.4	70.6	60.8
	データの活用	55.4	62.7	54.2
観点別	知識・技能	71.0	74.6	70.3
	思考・判断・表現	51.8	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均を2.8ポイント、参考値を0.7ポイント下回った。 ○式の計算での、正負の数の乗法や1次式の加法など、基本的な計算において、市の平均を上回った。 ●連続する3つの整数を文字式で表す問題では、市の正答率を大きく下回った。	・乗法の公式や平方根の考え方が定着していないため、演習問題やAIDリルでの復習を通して理解を深め、知識の定着を図っていく。 ・連続する3つの整数を文字式で表す問題の正答率が低かったため、穴埋め形式で練習をしてから説明や証明の記述問題に取り組むなど、段階的な問題演習を行うことで説明する力を身に付けさせる。
図形	平均正答率は、市の平均を5.2ポイント下回ったが、参考値は4.1ポイント上回った。 ○空間図形での直方体の直線の位置関係についての問題や、平面図形での合同な三角形の証明の問題では、正答率が7割以上だった。 ●平面図形での、垂直二等分線によって線分の中点を求める作図の問題では市の正答率を下回った。	・証明の理解を深めるために、日々の授業の中で穴埋め形式の問題を取り入れ、証明の流れを押さえるとともに、演習を通して定着させる。 ・図形の移動や立体の見方などICT教材を効果的に使用できる場面が多いため、理解の助けとなるよう積極的に授業に取り入れる。
関数	平均正答率は、参考値を5.6ポイント上回った。市の平均を3.6ポイント下回った。 ○x、yの値の変化の関係について考える問題では市の正答率を大きく上回った。 ●1次関数のグラフから式を求める問題では市の正答率を大きく下回った。	・関数では、条件に合う式を求めたり、グラフや表から式を求めたりする内容となるので、それぞれの特徴を押さえつつ、考え方を定着させていく必要がある。 ・グラフをどのように読み取ればよいかを説明し、適切な選択肢を判断する記述問題の正答率が低かった。そのため、関数のグラフから読み取れる情報を整理すること、具体的な根拠を示して文章を組み立てることを目的とした演習問題等を授業や定期テストで実施し、説明する力の向上を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均を6.6ポイント下回った。 ○6本のくじから1本をひくときの確率を求める問題では、正答率が8割以上だった。 ●四分位範囲の大小を比較する問題や度数折れ線を読み取りその特徴をもとに説明する問題では、市の正答率を大きく下回った。	・ヒストグラムや箱ひげ図など、知識として知っておかなければならない内容の定着が十分にできていないので、演習を重ね定着させる。 ・箱ひげ図や度数折れ線の特徴をとらえ、そこからどのようなデータを読み取ることができ、どういう場合に使うことが効果的かを、話し合い活動も交えながら再度確認する。身近なテーマに関連付けるなど、興味をもち主体的に学習に取り組めるような工夫をする。